



## 新年度1ヶ月が経ちました



平成29年度が始まり1ヶ月が経ちました。今、登校時に「あいさつ運動」を行っています。上級生が率先して挨拶をするなか、元気よく挨拶を交わす子どもたち、照れくさそうに会釈する子どもたち、保護者の方に促されて恥ずかしそうに小さな声で挨拶する子どもたち、どの姿も土曜日半日の補習校ですが、その目は頑張ろうとの気持ちで満ち溢れているように感じます。またこの間、毎週のように、保護者の皆様と接する機会があり、皆様の補習校にかける思いや熱意を肌で感じて来ました。子どもたちの姿や、保護者の方々のその様な思いに、応えなければと意を新たにしている次第です。

本年4月現在、世界に日本人補習校は212校あり、約2万人の児童生徒が通っています。文部科学省は、補習校に下記のような定義を持って校長を派遣しています。

本年4月現在、世界に日本人補習校は212校あり、約2万人の児童生徒が通っています。文部科学省は、補習校に下記のような定義を持って校長を派遣しています。

### 補習授業校は

- ・現地校に通学する児童生徒が、【対象】
- ・再び日本国内の学校に編入した際に、スムーズに適応できるよう、【目標】
- ・基幹教科の基礎的基本的知識・技能および日本の学校文化を、【内容】
- ・日本語によって学習する【方法】

教育施設である。

言うまでもなく学校というところは、集団で学習する場です。集団ですから、子ども一人ひとりとは十人十色、百人百色です。当然の事ながら、理解力の早い遅いは個々人の能力や頑張り

によって差が出てきます。それを教師の指導により、子ども同士の見点に立った者同士の「学び合い」で補いながら、全員を同じ船に乗せて、次の学年への橋渡しをします。

また、学校は建っている場所や環境により、大きく児童生徒の様子も変わってきます。その要素を絡み合わせながら、校長は学校経営をしています。それは日本もニュージーランドも変わらない視点だと思います。そう考えると、私は上記の文部科学省の補習校に対する定義は定義として、当然守らなければならないし、その看板を降ろすことは全く考えてはいませんが、カンタベリー補習校の実態にあわせた学校経営をできないものかと考えています。理解力の遅れは、子どもの日々の努力と保護者の支援という形で、補って頂かなければならないと思います。でも、日本語の会話環境からくる理解力に至らない前の段階の日本語能力の至らなさを、それを本人の努力と保護者の支援とでどうにかしていけるかと考えると、それはなかなか難しい問題のように感じるのはです。何か手助けをする方策はないかと思っています。しかしながら、今現在、では補習校では何が出来るかと問われると、現状以上の事が出来る環境にないのも事実です。

補習校の先生方は、ウィークデイには自分の仕事を持っています。土曜日のみの先生です。仕事の合間を縫って、事務所に来て教材研究をしています。大変な努力です。日本では1週間かけてやる授業を凝縮して土曜日1日で行います。「もう少し、ゆっくりと教えてあげて達成感を持たしてやりたいのに」という気持ちを持ちながら「何しろ教科書を終わらせなければならないので」との使命感に燃えています。先生方には本当に熱心で頭が下がります。有り難いことです。先生方も常に子どもの実態を念頭に入れながら指導しています。

縁があり、校長として赴任した私は、「元気な学校、校長が元気、先生方が元気、子どもたちが元気」活気あふれる学校にしたいと考えています。保護者の皆様のご支援に感謝申し上げ、更なるご協力を期待するものです。

5月20日の座談会では、  
たくさんの方にお越しいただき、  
ありがとうございました。



## お知らせ

全校授業参観および年次報告会を、6月10日(土)に行います。是非ご参加ください。

### ● 全校授業参観

時間： 午後1:15 ~ 2:00 (1校時)

場所： 各教室

### ● 年次報告会

時間： 午後2:05 ~ 2:50

場所： Ilam School ホール

内容： 運営・教育に関する報告  
および保護者委員会の活動報告